

第7回コンクール大賞の選考について

「わが村は美しく一北海道」運動が目指す姿とは、世代を繋いで営まれてきた農林水産業の健全な生産活動によってもたらされる「景観」、「地域特産物」、「人の交流」という3つの要素が、相互に関連し合いながら全体として調和を保ち、一体化して地域住民の生活に溶け込んでいくような「豊かさ」が醸し出す美しい農山漁村である。

今回の大賞審査に当たっては、「地域活動のモデル」として相応しい活動を選考するため、応募要領に示された6項目の審査基準と併せて、審査委員の共通認識として次の視点より審議を行った。

- 1 活動の結果としての具体的な「効果」が明白
- 2 活動の「先進性」「継続性」「広がり」が顕著
- 3 「村づくり」という概念で「景観」「地域特産物」「人の交流」の3つの要素が広がる活動
- 4 「景観」の意識が高い活動団体である

この視点の下、審査対象となった14団体の活動は、先に述べた「わが村」運動が目指す姿への取り組みにおいて、何れも地域が主体となった魅力ある活動として評価されるものであるが、この中から先導性、モデル性において特に優れている次の3団体を大賞として選考した。

大賞 団体名：新篠津村・農業観光生産者協議会（新篠津村）

農村地域へ観光客を呼び込む窓口「畑の案内所」を作り、農産物の収穫体験等を通じて村ぐるみで都市と農村の交流を図っている「新篠津村・農業観光生産者協議会」

本協議会は平成24年に新篠津村の安全かつ良質な農産物、加工品を観光資源として活用し、農産物のPR及び農業体験を通じて農業への理解を深めてもらうとともに、観光誘致に努めることを目的として村内の農家や商工会、JA、村役場等により設立した。

道の駅として利用しているしんしのつ温泉「たっぷの湯」に収穫体験案内施設「畑の案内所」を設置し、村内の収穫体験可能な農家20カ所に観光客を案内するなど、その利用者は毎年5千人に上る。

これまで農業と接する機会が少なかった一般市民の農業への接点が生まれ、農業が身近かになるだけでなく、収穫体験等を通じて都市と農村との交流が生まれ、農家のやりがいや収入増につながっている。

「畑の案内所」として観光客を村内に呼び込む窓口を道の駅に作り、観光農園ではない生産の場としての農家の畑で収穫体験をさせるモデルは前例が少なく、当日でも空き状況を確認し、できる限り体験できるように運営していることは、新篠津村全体を巻き込んだ大きな取組としてモデル性が高いことから今後とも観光振興への期待ができる。

また、収穫体験のほか、道内外のホテルや百貨店等への村内農産物の出荷や旅行会

社のバスツアーの車内販売、さらに、新篠津村農産物を主材料とした加工品の開発、販売に取り組み「新篠津村」ブランドの確立を目指している。

これらの取組には、農家や加工業者の他、JA、商工会、村役場も協議会会員として役割分担や協力体制が整っており、新篠津村産農産物の出荷、商品化により、「新篠津村」をブランド化することで、村全体の農産物の売り上げを伸ばすと共に、「新篠津村」をPRすることにつながり、経済効果などが発生している。

これらのことから、当団体の活動は地域の活性化に大きく寄与しており高く評価する。

大賞 団体名：絵本の里けんぶち VIVA マルシェ（剣淵町）

軽トラックによる機動的な対面販売にデザイン性を備えた新しい農業スタイルで地域づくりに取り組んでいる「絵本の里けんぶち VIVAマルシェ」

本団体は平成22年に剣淵町の生産農家25名が「軽トラマルシェ（商標登録認可済）」と名付けて、自ら生産した野菜を軽トラックによる対面販売を通じ消費者との交流を図ることにより、生産者としての生産意欲の向上と自覚を深めることを目的に活動を開始した。活動開始から5年目を迎え、「軽トラマルシェ」の年間開催回数は30回を数え、剣淵町内はもとより、道内各地や東京や大阪、広島などの道外へも出店し、活動範囲を着実に広げている。

また、このマルシェのため生産・販売する作物は、伝統野菜や西洋野菜などの珍しいものを含め約400品種あり、今まで持っているノウハウを活かし積極的に新たな野菜作りにも挑戦し、剣淵町に適した新たな特産物の掘り起こしに努めている。

このようにマルシェとして自ら移動し販売するスタイルは先進的であり、揃いのお洒落なユニフォーム、野菜の種類・色彩、ディスプレイへのこだわりは、直売所のイメージを一新するデザイン性が感じられ、農業の面白さや楽しさを一般消費者にも伝えている。

さらに、地元高校生等への食育活動、地域農業資源の有効活用を目的とした他の活動団体や障がい者と連携した農産加工品の共同開発・販売などを展開し、「地域づくり」を強く意識し、魅力ある農業・農村の形成と地域の活性化を進めている。

また、新規就農者の受け皿活動や、農村レストランの開催など、地域を盛り上げる活動を計画しており、更なる広がりが期待される。

「ものづくり」「人づくり」「地域づくり」の全てが繋がり機能することで、これらの活動は、さらに発展的な拡大をしており、本運動の3つの要素である「景観」「地域特産物」「人との交流」のいずれとも関連し、活動の個性・独創性、継続性や地域住民との関わりなどの面からも高く評価する。

大賞 団体名：落石地区マリンビジョン協議会（根室市）

「景観」「地域特産物」「人の交流」の3部門がバランス良く総合的に展開しており、地域が一体となった活動である「落石地区マリンビジョン協議会」

本協議会は根室市の落石地区において、将来にわたり豊かで活気のある漁村を構築

するため、水産業を核とした地域振興計画を策定し、各アクションプログラムを実行することを目的に、漁業者、漁業協同組合、地域住民、商工・観光、農業、行政などが一体となって平成16年に設立された。

地域の漁業者や住民が一体となり「オール落石」となって取り組んでいることや、長期的展望に立ち持続可能な地域に根ざした活動を展開していることは、非常に高く評価できる。さらに、その取組は地域を担う若い世代に確実に受け継がれており、その若い世代が、今後さらに取組の幅を広げ、進化・発展させようとする意欲も旺盛である。

その活動は多岐に渡り、①基幹産業である水産業の振興を図るため、地域ブランドの確立と浸透による落石産水産物の消費拡大・付加価値向上、②美しい景観を発信するフットパスの整備やマリンクルーズによる観光客の誘致等、交流人口を増大させる戦略的な取組、③次世代の担い手育成のための体験学習等、落石漁港を中心とした地域振興・コミュニティの活性化及び地産地消による域内活性化等を図っており、着実に成果を挙げている。

以上、「景観」「地域特産物」「人の交流」の3部門をバランス良く総合的に展開しており、また、地域の将来へのビジョンを明確に持ち、それをもとにした様々な取組が人々の交流、地域の活性化及び経済の振興を図り、それらが地域の郷土愛を育み後継者への育成と繋がっていくという好環境の輪は、将来への期待が大きいだけでなく、他の活動団体のモデルとなる活動であり高く評価する。